

土木工学・建築学委員会 IRDR 分科会 第 24 期第 6 回分科会議事要旨

日時： 平成 30 年 12 月 28 日（金） 10:00-12:00

会場： 防災科学研究所・東京会議室

議題： 1. 前回議事要旨の確認（資料 6-1, 6-2, 6-3）
2. IRDR 成都会議の報告（資料 6-5）
3. 成都ワークショップの報告（資料 6-6, 6-7）
4. 大型研究計画・新学術領域研究申請について
5. 2018-2019 年度の活動方針・計画について（資料 6-4）
6. その他

出席者： 小池俊雄，江守正多，沖大幹，大手信人，川崎昭如，小森大輔，鈴木康弘，寶馨，高橋良和（スカイプ），塚原健一，西嶋一欽，福井秀夫，目黒公郎，望月常好，林春男

欠席者： 春山成子，桑野玲子，小松利光，近藤昭彦，斎藤大樹，佐竹健治，多々納裕一，新野宏，緑川光正，山岡耕春，山本佳代子

（以上，敬称略）

議事要旨

1. 前回議事要旨の確認がなされた（資料 6-1, 6-2, 6-3）。

IRDR 分科会共催・日本学術会議公開シンポジウム（2019 年 4 月 5 日 13-17 時）の開催前（午前）に第 7 回分科会の開催可能性を検討することとなった。

2. IRDR 成都会議の報告（資料 6-5）

- 参加者が増え open 化が進んでいるとともに，1st（欧米圏）から 2nd（アジア圏）にシフトした感がある。
- 新しい 2 つのワーキンググループ（CCA-DRR, SEDRR）が加わった。

3. 成都ワークショップの報告（資料 6-6）

- Plenary2 は各国で，Plenary3 は 3 つのテーマで話し合いが行われた。
 - Plenary3.2 では，津波災害→福島原発災害のような新しい災害事例が議論された。
 - Plenary3.3 では，SFDRR の根幹は国の戦略づくりにあり，そのためには国と community を連携させる facilitator の教育が重要であることが議論された（資料 6-7）。その際，Online synthesis system は facilitator の tool や dictionary として利用されるのいいのではないか，と思われる。

（以下，報告に対する質疑応答）

- ✓ Facilitator に求められる人材・素養。誰が適しているか，という議論より，どうい

った役割が求められるかが大事なのではないかな？

- ✓ Online synthesis system の利用は facilitator 以外にも、様々なグループが集まるといいのではないかな？
 - 日本自然災害学会で事典の出版の要請が来ている
 - 高校1年生で地理が必修科目（週2時間（GISや防災）授業）に。その授業の教科書に防災研究者が執筆者として参加できないかな？
 - 防災を通じた人文地理と自然地理の融合

4. 大型研究計画・新学術領域研究の申請について

- 大型研究計画は「これを作って社会を変えよう」、新学術領域研究は「新しい学術領域を作ろう」。違う枠組みなので分けて考えるべきであろう。
- 今年度の新学術領域研究の申請は終わってしまったので、次年度に向けて準備を進めたい。

5. 2018-2019 年度の活動方針・計画について（資料 6-4）

- IRDR-Japan からの提案策定を行う。
 - 実際に災害が頻発している国（日本もその1つ）から提案されるのが重要ではないかと考える。多々納先生、Rajab 先生が STAG にいるので声は届きやすくなった。
- 国内外の会議を活用する。
 - APHW2018 は開催されず、APHW2019 が 2019 年終盤に開催される予定。
 - The UN Global Assessment Report（GAR 2019）の進捗は不明。
- IRDR-Japan Annual Report を創刊する。
 - 各委員の論文リストを収集させていただくことを、幹事で検討する。
- IRDR-Japan Homepage を開設する。
 - 防災減災研究ハブで検討したらいいのではないかな？ それまでは暫定的にどこかに置いておけばいいのでは？
 - Online synthesis system の一部に位置付けてもいいのでは？

6. その他

- 2019 年の防災推進国民大会は名古屋（10/19-20）。その際に、IRDR 分科会の開催を計画する。
- 第 21 回 Scientific Committee は Geneva で 2019/5/10 の予定。
- 地震工学の国際シンポジウムが 2020 年 9 月@仙台の予定。
- 世界斜面崩壊フォーラムが 2020 年 11 月@京都の予定。
- Future Earth の日本フォーラムを計画（来年度には具体化すると思われる）。